

# 福島第一原子力発電所の状況

2017年6月7日  
東京電力ホールディングス株式会社

## <1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (6/7 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	給水系：約 1.4 m <sup>3</sup> /h	21.0	1.34 kPa g	A系： 0.00 vol%
		炉心スプレイ系：約 1.6 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	給水系：約 1.5 m <sup>3</sup> /h	26.8	4.05 kPa g	A系： 0.02 vol%
		炉心スプレイ系：約 1.4 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.02 vol%
3号機	淡水 注入中	給水系：約 1.5 m <sup>3</sup> /h	24.2	0.27 kPa g	A系： 0.01 vol%
		炉心スプレイ系：約 1.4 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.00 vol%

### 【1号機】

・2017/6/6～ 原子炉压力容器および原子炉格納容器内の不活性化のため、原子炉压力容器ヘッドスプレイラインから窒素封入を実施しているが、窒素封入ラインの信頼性向上を目的として設置したジェットポンプ計装ラインを用いた窒素封入試験を開始。2017/7 下旬頃まで試験実施予定。

## <2. 使用済燃料プール(SFP)の状況> (6/7 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	SFP 水温度
1号機	循環冷却システム	停止中	25.1 °C <sup>*1</sup>
2号機	循環冷却システム	運転中	25.4 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	24.8 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	22.3 °C

※ 各号機 SFP および原子炉ウェルヘドランジンの注入を適宜実施。

\*1 循環冷却系一次系停止中のため、SFP 水温度に関しては 5/29 11:00 現在のデータを記載。

### 【1号機】

・2017/5/29 使用済燃料プール(SFP)循環冷却系の一次系については、設備信頼性向上を目的とした当該系統の電源二重化作業を行うため、停止(停止期間 5/29～6/13)。停止期間中のSFP水温度上昇は、約 19°C(温度上昇率:0.052°C/hと評価)。

## <3. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (6/7 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種 除去設備 (ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多 核種 除去設備
運転 状況	停止中 <sup>*1</sup>	運転中 <sup>*1</sup>	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット 試験中 <sup>*2</sup>	ホット 試験中 <sup>*2</sup>	ホット 試験中 <sup>*2</sup>

\*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。 \*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

## <4. その他>

- ・2014/6/2～ 陸側遮水壁工事を開始。
- ・2016/3/31～ 試験凍結において、ブライン(不凍液)循環設備の健全性の確認等ができたことから、凍結運転(第一段階:1～4号機の海側全面と山側の一部の凍結)を開始。
- ・12/3～ 陸側遮水壁山側の未凍結箇所7箇所のうち2箇所(1号機西側・4号機西側の一部)について、凍結運転(第二段階)を開始。
- ・2017/3/3～ 陸側遮水壁山側の未凍結箇所5箇所のうち4箇所(1号機北側・1号機西側・3号機西側・4号機南側の一部)について、凍結運転を開始。
- ・2015/5/27～ 構内で今後使用しないフランジボルト締めタイプのRO濃縮水貯槽の解体作業を開始。

- ・2017/3/28～ 汚染水処理を貯留した実績のない地下貯水槽 No.5について、貯留タンク設置場所の拡張を目的に、解体・撤去作業を開始。
- ・2017/6/1～ 3号機復水器内貯留水の移送作業を開始。
- ・2017/6/5 13:35 頃、5・6号機滞留水処理装置(RO装置)の取水槽エリア付近に水溜まりがあることを当社社員が発見。水は、当該設備のコンテナ内にある堰内に留まっており、堰外への漏えいはない。水が溜まった範囲は、約 4m×2m×3cm。  
その後、滞留水を受け入れていた取水槽から水が溢れたものと確認。溜まり水の量は、約 240L と評価。溜まり水の分析結果は、以下のとおり。  
・Cs134:  $1.5 \times 10^1$  Bq/L ・Cs137:  $1.2 \times 10^2$  Bq/L ・全ベータ:  $3.3 \times 10^3$  Bq/L
- 6/6 11:10～14:55 にかけて、当該装置コンテナ内の堰内に溜まった水を取水槽に回収。その後、水溜まりがあった箇所の雰囲気線量を測定し、周辺と同等の値であることを確認。

#### 【3号機燃料取り出し用カバー等設置作業】

- ・2017/1/17～ 使用済燃料プールにて保管している燃料取り出しによる福島第一原子力発電所のリスク低減に向けて、燃料取り出し用カバー等設置作業開始。

#### 【サブドレン他水処理施設の状況】

- ・2015/9/3～ サブドレン他水処理施設運用開始。
- ・サブドレン他水処理施設一時貯水タンクCの分析結果[採取日 6/2]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、6/7 10:16～13:12 海洋への排水を実施。排水量 424m<sup>3</sup>。
- ・サブドレン他水処理施設一時貯水タンクDの分析結果[採取日 6/3]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、6/8 海洋への排水を実施予定。

#### 【地下水バイパスの状況】

- ・地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。
- ・地下水バイパス一時貯留タンク分析結果(Gr2)の分析結果[採取日 5/24]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、6/6 10:03～17:17 海洋への排水を実施。排水量 1,846m<sup>3</sup>。

#### 【1～3号機放水路の状況】

※1～3号機放水路については、1号機放水路上流側立坑および2号機放水路立坑において、セシウム 137 の濃度が上昇したことから定期的に水質調査を実施。

<最新のサンプリング実績>

- ・至近の測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

#### 【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

<H4・H6エリア周辺、福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・至近の測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<タンクパトロール結果>

- ・2017/6/4 16:05 頃、G6タンクエリアにおいて、A9タンク(フランジ型)側面のフランジ部から水が1秒間に5～7滴程度で滴下していることを、パトロール中の協力企業作業員が発見。滴下した水は、内堰内に留まっており、外部への流出はない。16:22 に念のため、G6タンクエリア周辺にある外周堰の排水弁を閉止。

17:25 頃、滴下箇所周辺にビニール養生をするとともに、仮設タンクを設置して滴下した水を受ける処置実施。  
6/5 6:30 に当該タンク側面フランジ部からの滴下を停止させるため(滴下箇所より低い位置までタンク水位を低下させるため)、仮設ポンプにより当該タンクから同エリア内C8タンクへ移送を開始。9:30 に堰内の水の汲み上げを開始。汲み上げ水は、角形鋼製タンクに移送し、その後、タービン建屋に移送予定。

当該タンク側面フランジ部からの滴下水の分析結果は以下のとおり。

- ・Cs134: 検出限界値未満 ・Cs137:  $8.8 \times 10^1$  Bq/L ・全ベータ:  $5.4 \times 10^6$  Bq/L

G6タンクエリア堰内水(滴下箇所直下)の分析結果は以下のとおり。

- ・Cs134: 検出限界値未満 ・Cs137:  $7.8 \times 10^0$  Bq/L ・全ベータ:  $1.4 \times 10^5$  Bq/L

当該タンク側面フランジ部から堰内に滴下した水の量は、6/4 12:00 頃に実施したパトロールにおいて滴下がないことを確認していることから、それ以降に滴下が発生したものと仮定し、養生が完了した時刻(6/4 17:25 頃)までの滴下量を算出した結果、約 45L と推定。

その後、当該タンク水位が滴下箇所(第2フランジ)よりも低い位置まで低下し、17:00 に滴下が止まったことを確認し、17:10 に移送を停止。また、堰内の水については、6/6 14:40 に角形鋼製タンクへの移送を完了。今後、計画的に角形鋼製タンクからタービン建屋への移送を行う。

#### 【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

<地下水観測孔・海水サンプリング実績>

- ・至近の測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

#### 【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

- 地下貯水槽 No.2 の貯留水については、汚染水保有リスクを低減するため、2016/6/1 10:05 当該地下貯水槽から多核種除去設備への移送を開始。なお、当該地下貯水槽には、約 1,400m<sup>3</sup> の汚染水を貯留しているが、本移送においては、多核種除去設備での処理状況や受入タンク側の空き容量も考慮しながら、既設ポンプによる移送が可能な水位まで、断続的に移送を実施する予定。
- 2016/3/1 に採取した地下貯水槽 No.1周辺の観測孔A11～17 の地下水を分析した結果、前回値(2/2 採取)の全ベータ放射能がND(ND 値 22Bq/L)であったのに対し、最大で 200Bq/L に上昇していることを確認。なお、当該観測孔は 3 年前に地下貯水槽からの漏えいが確認された以降、ND だったが、全ベータ放射能の上昇が確認されたことから、漏えいの可能性も含めて調査を実施していく。

#### <最新のサンプリング実績>

- 地下貯水槽周辺の観測孔全ベータ放射能が上昇した件、および地下貯水槽 i 南西側および北東側の漏えい検知孔水において全ベータ放射能が上昇した件について、6/6 に採取した水の全ベータ放射能分析結果は、至近の分析値と比較して有意な変動は確認されていない。引き続き、地下貯水槽および周辺の観測孔について監視を継続する。

以上